



潜りに賭ける ～素潜りの格闘・巨大魚への挑戦～



▲記念撮影をする小坂さん(左)と門間市長

2025「植村直己冒険賞」 授賞式・記念講演会を開催

6月20日、日高文化体育館で30回目となる、2025「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会を開催しました。

「素潜り・手鋸一本で、前人未到の100kg超イソマグロ捕獲」を成し遂げた小坂薫平さんを招き、メダルや盾、副賞を贈呈しました。今回初めて「生き物」と対峙する冒険が受賞することとなりました。

小坂さんはヒラメやカンパチを狙う中、素潜り漁師から“伝説”と呼ばれる魚「イソマグロ」に興味

を持ち、2015年から100kg超えのイソマグロを狙い始めました。そして、2025年5月、ついに10年越しの挑戦で全長198cm、重さ105.5kgのイソマグロを仕留め、金字塔を打ち立てました。

授賞式に続いて行われた小坂さんの記念講演では、捕獲までの経緯を、写真を交えながら、丁寧に語られました。会場の約550人の来場者は普段目にする事のない海中の世界と、巨大魚との格闘の話に聞き入っていました。質疑応答では、受賞者・小坂さんの親しみやすい人柄もあり、質問が相次ぐなど、会場は終始温かい空気に包まれていました。

《問合せ》日高振興局地域振興課 ☎21-9056

受賞者からのメッセージ



▲これまでの経験談と感謝を述べる小坂さん

「ありとあらゆることに感謝」

小坂 薫平さん

「海は人間のルールが一切通用しない世界」であり「なるべくイソマグロに顔向けができるやり方」で魚と向き合いたいと語り、そこからは自然に対して謙虚であり、相手(海や自然)を理解しようとする小坂さんの真摯な姿勢が伺えました。

また、100kgを超えるイソマグロを仕留めた瞬間、自身の胸に込み上げてきたのは「ありとあらゆることに対する感謝の気持ち」だと述べました。

幼い頃の経験や、魚突きの師匠、仲間、漁師や地域の人々との出会いなど、これまで

での人生の出来事すべてが今につながっていて「一つでも欠けていたら、この瞬間にはたどり着かなかった」と振り返りました。

「それぞれの人生において、小さな挑戦を通して、学び続け、支えてくれる方々への感謝を忘れないことが、明るい未来を創る力になる」と、受講者に示してくれる授賞式・記念講演会となりました。